

人権尊重のまち

LGBTの理解促進と支援についての考えは

答弁…差別や偏見のない「人権尊重のまち」の実現に向けて、これからも努力してまいりたいと考えております。

大内 清心 議員

大内 人はそれぞれ見た目や考え方が異なるように、性のあり方も多様です。性的少数者、いわゆるLGBTの割合は、全人口の約7%、960万人ほどいるとされています。そのため、一人一人の多様性を尊重した差別のない社会を築くことが重要であると思います。他市では、「LGBTとともに生きる宣言」を行った例もありますが、一人一人の多様性を尊重した差別のない社会の実現のためにも、宣言を行っていただきたいと思っております。

市長 LGBTの方に

対する偏見や差別は許されることではないと考えております。本市では各種人権施策を推進する中で、LGBT等性的少数者の理解促進に関して、人権尊重の視点から教育・啓発を推進するものと位置付けております。市の業務における書類等においても、改めて見直していく必要があると思っております。

また、LGBTに関する宣言については、研究させていただけますが、一人一人の多様性を認め合い、個人として尊重される、差別や偏見のない「人権尊重のまち」の実現に向けて、これからも努力してまいりたいと考えております。

考えをお伺いします。

高齢者支援

高齢者が生き生きと暮らしていくための考えは

答弁…適度な運動や認知症等の予防対策に重点をおいて、市民の皆様が高齢者支援施策に参加していただけるように工夫しながら支援に努めてまいりたいと考えております。

竹内 政雄 議員

竹内 日本は、平均寿命、高齢者数、高齢化のスピードという3点において、世界一の高齢化社会といえます。総務省が発表した2013年9月15日時点の推計によりすると、65歳以上の人口は3186万人となり、総人口に占める割合は25%と過去最高を更新し、4人に1人が高齢者となりました。さらに、高齢化率は2020年に29.1%、2035年には33.4%に達し、約3人に1人が高齢者になると推計されております。本市の平成29年4月1日現在の高齢化率は26.8%であります。そのような中、高齢者が元気に生き生き暮らしていくための考えをお伺いします。

市長 高齢者支援施策に

ついては、福祉と健康の両面から、一人一人の状態に応じた支援が重要であり、その中でも病気の予防をはじめ、適度な運動、趣味活動、地域活動、社会活動への参加によるひきこもりの予防、認知症予防など、予防対策に重点をおいて取り組んでいくことが大事であると考えております。市として考えられる高齢者支援施策については、おおむね用意しているものと認識しておりますが、市民の皆様に参加していただくことが重要でありますので、より多くの市民の皆様に参加していただけるよう工夫を凝らし、支援してまいりたいと考えております。

利根川新橋

利根川新橋（第2埼玉大橋）の今後の取組は

答弁…隣接する栃木市、特に板倉町と協議しながら、活動を強めて一歩一歩着実に前進させてまいりたいと考えております。

新井 好一 議員

新井 利根川新橋の整備については、総合振興計画の中にも位置付けられており、地域の一体化、地域産業及び観光の振興、また、今日の道路事情、さらに防災面として広域避難時における橋の役割等を考えると、この地域での新設の意味は非常に大きいと思います。このことについては、利根川新橋の意味を表に出した形で議論を進めていくべきではないかと思っております。今後の取り組みについての考えをお伺いします。

市長 合併により、利根

川を挟んだ一つの行政区域になったことで、その必要性が高まってきたものと考えております。また、生活する地域の人々にとって様々な面で大きな影響があるということも、国においても認識されていると思っております。特に国土交通省の方と懇談する際には、利根川の堤防強化と合わせて常に話題にし、必要性については、従来に比べて国の認識の度合いは高まってきていると考えており、さらに中身を深めながら充実させて取り組んでまいりたいと考えております。市としては、隣接する栃木市、特に板倉町と協議しながら、活動を強めてまいりたいと考えております。議員各位におかれましても、議員レベルでの交流を深めていただくことが、市一体となつての取組につながっていくと認識しております。一歩一歩着実に前進させてまいりたいと考えております。